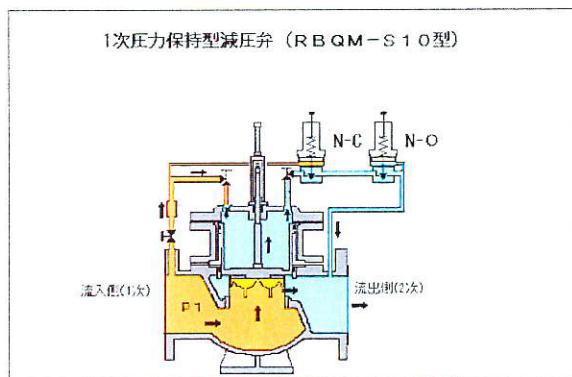


RB-QM型 少流量対応型減圧弁の色々な利用方法(オプション) [小規模水道用]

(1) 上流の圧力を「一定圧以上に確保」しながら減圧する (RBQM-S10型)

減圧弁2次側の使用水量が大幅に増加したとき、1次側圧力が低下し、上流側での給水に支障をきたすような場合に、下流側に対して取水制限を行います。1次圧力の制御を優先致します。

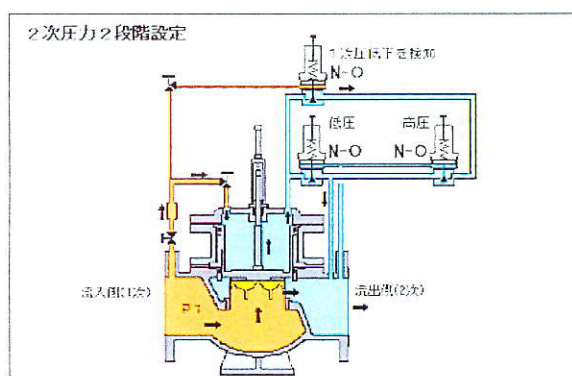
主弁のみを制限し、副弁は通常作動しますから、下流に対しては完全断水にはなりません。但し、1次圧保持機能が作動中は、2次側の圧力が設定値以下になることがあります。



(2) 2次側圧力を2段階に設定する (RBQM-2P型)

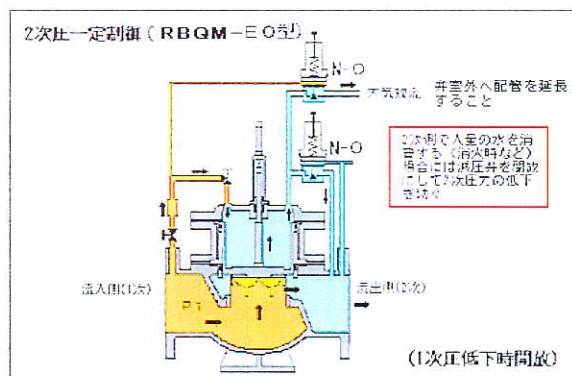
流量が多いときは設定2次圧を高く、流量が少ないときには設定2次圧を低くします。

設定範囲に制約がありますから、事前にご相談ください。



(3) 大型火災などの非常時には減圧弁を開放にする (RBQM-EO)

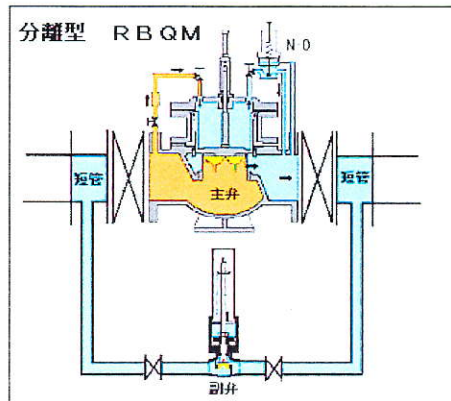
消火活動などで流量が多くなり、2次側の圧力維持が困難な状態のとき、減圧弁を開放にします。



(4) **主弁と副弁を分離して設置することもできる**（標準は本体組込み）

日常の流量が消火時流量に対して極端に少ない場合、バイパス管に副弁を取り付けることもできます。

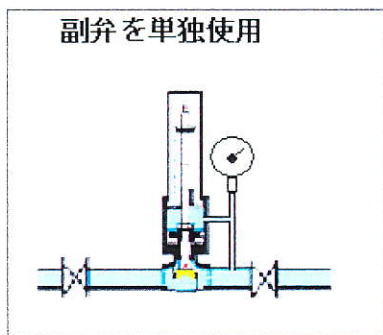
既に設置された減圧弁が、少流常時に不安定でお困りのとき、下図のようにして、副弁を追加することも可能です。事前の打ち合わせが必要です。



(5) **副弁のみを減圧弁として利用できます。**

給水配管に消火機能を必要としない、極端に給水人口が少ない場所で用いられます。

場合によっては、消火機能に対応できることもありますから、ご利用になる前にご相談ください。



註 2次圧力は全閉時に設定値より僅か高くなります。